

2018年(平成30年) 12月発行

な か ま

第55号



発行者 益田市保育研究会
情報発信委員会
事務局 〒698-0036
益田市須子町3-1
TEL 23-3607
FAX 22-3554

熱中症に気を遣う暑い暑い夏を乗り越え、台風到来の心配をしながら運動会を終え、発表会のことを考え始める今日この頃、もう一年が終わる月となってしまいました。一日一日を精一杯過ごしていると、一年なんてあっという間ですね。今年度も研究会を代表して執行部の先生方に様々な場所で活動いただきました。また各委員会でもさまざまな活動が行われました。今回は河野副会長、各委員会の活動報告をお伝えいたします。日々の保育を行う皆さんにも知っておいていただきたい情報満載です。

ふるさと教育研究委員会の10年。

益田市保育研究会 副会長 河野利文
(ふるさと教育研究委員会 委員長)

11月17日に出雲市で開催された第62回島根県保育研究大会で益田市保育研究会ふるさと教育研究委員会自然部会の皆さんによる研究発表「ふるさとにまみれて育つ～保育所・認定こども園から小学校へ～」が行われ、ふるさと教育の取り組みを始めてから10年の成果について自然部会の皆さんが素晴らしい発表をされました。発表に携わった先生方、そしてこれまでこの活動に関わって来られた全ての先生方に敬意と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

益田市保育研究会がこの「ふるさと教育」の活動に取り組み始めてから10年となる節目に、改めて、そもそもなぜ益田市保育研究会としてこのような取り組みを始めたのか、その背景を振り返ってみたいと思います。

【止まらない少子化の流れ】

私は、平成17年からの2年間、島根県が取り組む少子化対策についての提言をするために設置された「島根県少子化対策推進協議会」の委員として県の政策提言づくりに関わりました。当時提言した政策のいくつかは今も県の事業として取り組まれています。あれから既に10年以上経ちましたが、残念ながら少子化や人口流出による人口減少の流れは、島根県はもちろん、我が益田市も止まっていない状況となっています。



【保育の力でできること】

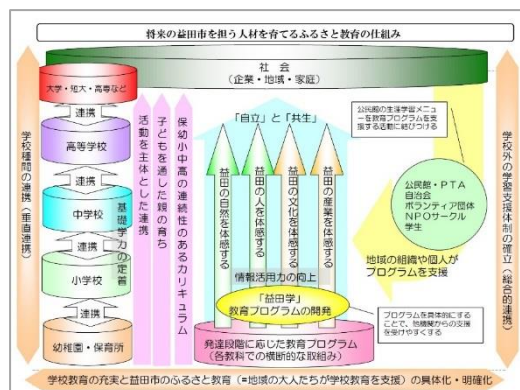
平成21年の保育研究会総会の場で、このような少子化と人材の流出が続く益田市において益田市保育研究会に所属する各保育所が持つ『保育の力』でできることとして「益田市の子育て環境を良くしていくこと」「将来の益田市を担う人材を育てること」の2つの視点で、それまでの保育研究会の活動を見直すこととなり、目指す姿について提案しました。

【益田市の将来を担う人材を育てる仕組みづくり】

益田市では高校を卒業後、ほとんどの子どもが大学進学や就職で益田市から出て行くこととなります。

一度この町を出てみたいという子ども達の気持ちは理解できるという方がほとんどだろうと思いますが、例えば「就職先がない」「若い人が遊ぶ場所がない」「都会に出たい」など様々な理由で、帰って来ないことも当たり前のこととして誰もが受け入れている状況があります。そして、これを続けて来た結果として少子化や人口減少があり、この流れを変えていくためにはどのようなことができるのでしょうか。

そのためには、保育の力でできることももちろん考えていかなければなりません、更にそこから、小学校や中学校、高校、地域、市内の事業所、行政など、ありとあらゆる機関がそうした視点で連携し合いながら「人づくり」を通して地域全体が動き出す仕組みが必要であると考えました。そこで作成したのが右の図です。



これを実現するということを保育現場から発信をする。そして保育現場の動きが「子ども達のために！」と様々な人の心を動かしていく。そんなことを想像しながら、ふるさと教育研究委員会の活動をスタートさせました。

【まずは小学校との連携を進める】

自然部会や民話部会の皆さんが中心となったこれまでの取り組みの内容については、各現場の先生方がご存知のことと思いますのでここで詳細は述べませんが、この活動は島根県立大学の共同研究へと発展し、県内でも注目される取り組みとなり、各保育現場でのふるさと教育の活動は、小学校との連携へと繋がり、益田市と島根県立大学との共同研究へと展開しながら、ふるさと教育マルシェという形で各中学校区へと広がりました。小学校の先生方には「保育士の先生達はこういう視点で子どもを見ているんだ」「小学校の先生方はこんな風に考えているんだ」と、各地域の資源（高津川、津田海岸、公民館の職員さんや地域の方々）を活用した交流活動を通してお互いの子ども観を確認



することができたことで、双方の教職員にとって学びの成果も見えてきました。

昨年度は、益田市として「益田市保幼小接続カリキュラム」が策定さし、いよいよ市を挙げて小学校との連携を各校区で取り組むということを当たり前としていくための仕組み作りも始まりました。

【人づくりを益田市の中心施策に】

この間、益田市においては「人づくり」を益田市の中心施策として取り組むことが決まり、「ライフキャリア教育」という言葉で、この町で21世紀を生きる子ども達が身につけるべき力をどう付けるかという議論が始まりました。

平成29年度から益田市教育委員会が立ち上げた益田市未来を担い手育成推進協議会では、益田市保育研究会からは私が、そして小中学校の校長会だけでなく、各高校の校長先生、幼稚園の園長先生、商工会議所、企業の代表者などが一緒になって「小学校の時代にはどんな力を付けなければならないか」「では中学校や高校の時代は？」「もっと地域の大人や地元企業経営者などと関わる機会を作れないか。」「もっと地域を語る機会を作る必要があるのでは？」など様々な議論をしています。

ふるさと教育の活動を始めた頃には、こうした場を作ることなど誰にも興味を持ってもらえない状況でしたが、保育現場からの発信があったからこそ、そして皆さんの活動があったからこそ、

ここまでの流れができたことは間違いありません。

そしてこのことは、今まさに皆さんが保育をしている目の前の子ども達の未来に繋がっていくことは間違いありません。

【保幼小中高と地域が一体となって取り組む人づくりの実現へ】

11月28日に行われた今年度2回目となる益田市未来を担い手育成推進協議会の会議では、小学校や高校の代表の先生方から「益田市として、乳幼児期から高校まででどんな育ちが必要なのか、それをどう支えて行くのかを、それぞれの段階に関わる保育士さんや教職員はもちろん、益田市民も共有できるようなものを作っていく段階に来ているのではないか」という発言がありました。

当初、保育現場から発信した人づくりの動きは、想像した以上の大きなうねりとなる可能性を秘めながら、「子ども達のために！」と様々な人の心を動かし、将来の益田市を担う人づくりの新たな仕組みが動き出そうとしています。

【保育現場の役割は変わることなく】

では、保育現場の役割に変化はあるのでしょうか。

この数年は国の制度改正や新たな保育指針への対応などに振り回され、増え続ける事務量の増加と制度改正への対応に苦慮する所長先生方の声、現場でのマネジメントに悩む先生方の声を多く聞きました。また、現場の先生方も研修に出かける機会が増えた大変な時期であったと思います。国や県、市の対応の遅さへの不満の声なども多く聞きました。

その中であって、市として取り組む新たな「人づくり」については、10年間地道にふるさと教育を続けてきた保育現場の役割は変わることなく、これからの人づくりの基盤となり続けるものであると信じています。

ふるさと教育の仕組みづくりを始めて10年。私自身は会員の皆さんと現場で一緒に楽しむ機会がすっかり少なくなったことに一抹の寂しさを感じながらも、目の前の子ども達の未来のために、私の果たすべき役割をしっかりと果たしていきたいと思います。今後とも会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



【島根県保育研究大会】 11月17日（土） 主催 島根県保育協議会・出雲市保育協議会

【研究発表】 「益田市保育研究会」 テーマ ふるさとにまみれて育つ

～保育所・認定こども園から小学校へ～

【全体発表】

発表者：美濃 愛花（遠田保育園 保育士）

増野 建一（葵保育園 主任保育士）

【第一分科会】

発表者：三浦 嘉子（認定こども園 原浜保育所 保育士）

豊田 美鈴（認定こども園 神田保育園 保育士）

助言者：肥後 功一（島根大学副学長・大学院教育学研究科教授）

司会：佐々木 白文（遠田保育園 園長） 参加者：105人



【島根県保育研究大会の発表を終えて】

自然部会長 塩満 恭子

第 62 回島根県保育研究大会で、自然部会（研究発表部会）4 人の先生方が大きなホールのステージでとても堂々と研究発表してくれました。ふるさと教育を研究会がスタートして 10 年。この 10 年の取り組みと変化、そしてこの 2 年間、保小連携・接続を中心に取り組んできたことについて発表しました。講評、助言をしていただいた肥後先生からは、当日以下のようなコメントをいただきました。

（優れた点）

- ・ふるさと教育を学校からではなく、地域の保育所からスタートさせ、小・中・高校へとつなげていこうとしていること。
- ・図を掲げて、めざすイメージを他機関と共有、確認できるようにしていること。
- ・保護者を、地域を楽しみながら子育てする生活者として能力アップさせようとしたこと。
- ・保育者や教員の変化を捉えていること。子ども達が、この地域に住んで暮らしたいと思うためには、子どもに伝えることも大事だが、同時に、魅力的な生活者、大人に出会うことがとても大事。

（課題）

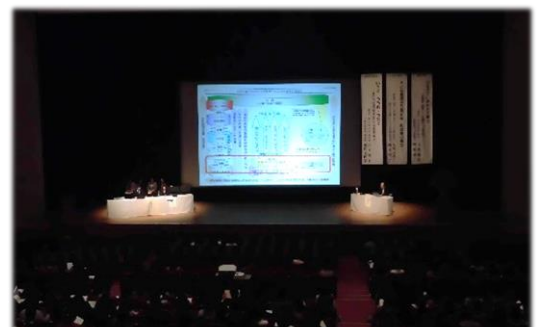
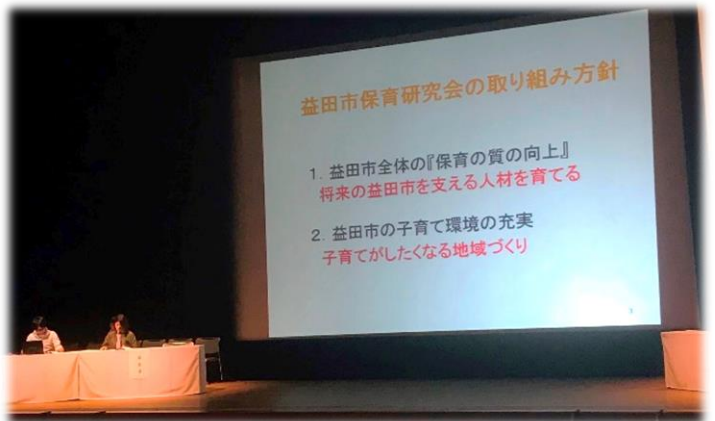
- ・子どもにどういう力が育ち、それをどう見ていくのか。ふるさとにまみれて育つ、3つの力（生活する力、かかわる力、学ぶ力）をどういうふうに捉え考えていくのか。（分科会の講演の中で、「何を目指しているのか」「なぜその方法なのか」を語る言葉を持つことが求められるというお話もされました。）

保育研究としては十分なものとは言えず、

大きな課題をいただいて帰りましたが、研究発表に向け、部会内で、保小交流での子ども達の姿を観察し語り合ったり、益田での活動をどう伝えていくか悩んだり自分達自身はとても貴重な学びの機会をいただくことができました。後日、肥後先生からは「保育・教育を核としての地域再開発の全国の良いモデルに！」という言葉もいただきました。10 年取り組み続けたことが、しっかりと益田の子ども達の育ちにつながっていけるよう、これからも各園や研究会で、また他機関との連携を通して深めていければと思います。

この研究発表にあたり、大変お忙しい中、アンケートの配布やご記入、保小交流活動への参観、記録等のご協力をいただきましたこと、そしてこれまで自然部会に関わってくださった先生方、部会園の先生方に心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。



益田市保育研究会 平成 30 年度 事業内容一覧 H30.4 月～11 月

(所長会や各種部会の定例会については掲載しておりません)

- | | | |
|------|------|---|
| 4 月 | 21 日 | 平成 30 年度 益田市保育研究会総会 |
| 6 月 | 8 日 | 救命救急法講習会(研修委員会)
講師: 益田地区組合消防本部 |
| | 15 日 | 野外安全管理研修会(ふるさと自然部会)
講師: 野外体験活動指導者 檜谷 邦茂氏 |
| | 22 日 | タッチケア体験会(保育体験推進委員会)
講師: 比治山大学短期大学部幼児教育科 准教授 七木田 方美 氏 |
| | 24 日 | よしとコンサート「紙芝居パフォーマンス tukuru」
(子育て支援委員会、男性保育者部会) |
| 8 月 | 20 日 | 第一回保育士等キャリアアップ研修【幼児教育】
講師: 島根県立大学人間文化学部 教授 山下 由紀恵氏 参加者: 39 人 |
| | 24 日 | 第二回保育士等キャリアアップ研修【幼児教育】
講師: 千葉大学教育学部 教授 松寄 洋子氏 参加者: 39 人 |
| 9 月 | 1 日 | 「すくすくフェスタ」参加 (ふるさと民話部会) |
| | 7 日 | 看護師部会講演会
講師: 益田赤十字病院 感染管理認定看護師 大賀 香織氏 |
| 10 月 | 12 日 | 音楽あそび研修(研修委員会)
講師: 宮崎 真理子 氏 |
| | 19 日 | 第三回保育士等キャリアアップ研修【幼児教育】
講師: 島根県立大学人間文化学部 教授 山下 由紀恵氏 参加者: 38 人 |
| | 21 日 | アニマルセラピー(特別支援委員会)
講師: チームワンダフル 参加人数: 8 世帯 23 人 |
| | 24 日 | 離乳食研修会(調理担当者部会)
講師: 益田市子ども家庭支援課 福原 亜紀子氏 |
| | 28 日 | ポップコーンをつくろう(子育て支援委員会、男性保育者部会) 参加人数: 21 世帯" |
| 11 月 | 17 日 | 島根県保育研究大会(研究発表部会参加) |



【"よしとコンサート「紙芝居パフォーマンス tukuru」】

(子育て支援委員会、男性保育者部会)

日時 6 月 24 日(日) 時間: 午前 10 時～11 時 会場: 益田市総合福祉センター 大集会室
「親子ニコニコ交流日」企画 「よしと」と遊ぼう紙芝居パフォーマンスが益田市総合福祉センターにて開催されました。約 240 人の親子が参加され楽しいイベントとなりました。



【特別支援委員会】 ～ アニマルセラピー ～

10月21日(日)10:30～11:30まで、商工会議所1階ホールにて池内動物病院院長池内豊先生はじめ、チームワンダフルの方々にご協力いただき、犬4匹猫1匹によるアニマルセラピーを行いました。参加者は8世帯子ども10人、大人13人でした。

始めは見るだけで表情が固かった子ども達も、ワンちゃん猫ちゃんの表情に少しずつ癒され、おっかなびっくりでしたが、握手したり頭をふれてみたりと、子ども達も保護者さんもみるみる表情が和み柔らかくなっていく様子が手に取るように分かりました。最後には、ほとんどの子どもさんが抱っこし、親子共々素敵な笑顔が見られたこと、主催者としてとてもうれしく感じました。

特別支援委員会 和崎 純子



【保育体験推進委員会】

①「タッチケア体験会」

日時：6月22日(金) 場所：グラントワ

講師：比治山大学 七木田方美先生

参加者：益田中学校3年生138人、親子、
県大医学部看護学科学生、子ども福祉課



②「中・高校生の保育実習事前講話」

日時：5月17日(木) 場所：益田中学校 参加者：3年生138人

③「中学生と保育園児の交流会」

日時：5月24日(木)、25日(金) 場所：益田中学校屋体

参加者：吉田こども園36人、葵保育園34人、
益田ひかり保育所34人、雪舟保育所34人 3年生4クラス

④「サマーボランティア学生開校日講話」

日時：7月16日(月) 場所：福祉センター 大集会室

参加者：サマーボランティア参加 中・高校生

⑤「翔陽高校総合学科1年生保育体験講話」

日時：6月8日(金) 9:00～10:45 場所：翔陽高校 参加者：総合学科1年33人

⑥「産んでくれてありがとう育ててくれてありがとう講座」

I、日時：7月13日(木) 場所：明誠高校 参加者：1年162人

II、日時：7月20日(木) 場所：益田高校 参加者：177人

III、日時：7月9日(月) 場所：益田養護学校 参加者：高等部1,2年



【新春賀会実行委員会】

今年は「新春賀会」が開催される年。11月27日「新春賀会実行委員会」の会議が開催されました。研究会執行部・主任部会（正副部会長）・日保青年部を中心に計画を立てていきます。

研究会会員が一同に集まり、懇親を深めながら楽しい時間となりそうです。



皆様のご参加心よりお待ちしております。

「新春賀会」

日時：平成31年1月12日（土）

17:00～18:00 研 修

18:30～20:30 新春賀会

場所：サンパレス益田 *研修会場 高津公民館

【研修委員会】 ～ 音楽あそび研修を終えて ～

10月12日音楽遊びの研修を開催しました。沢山の参加を想定(?)し、シロホン、大太鼓、スネアドラム等大小の楽器をいろいろと用意しましたが、7人の参加で残念でした。(これは困った！研修委員も参加しなくちゃいけない…)

当日は参加者全員が緊張気味。緊張をほぐすためパートナーを作って歌やダンスで自己紹介。少し緊張がほぐれたところでスタート。用意した楽譜は20曲。各自キーボードの音色を変えながらしばらく自主練習開始。宮崎先生の一言でいざ本番へ。前列はキーボード、他は大太鼓、スネアドラム、シロホン、鉄琴、鈴、カスタネット、タンバリン、シンバルと交代をしながら数曲を演奏しました。(参加者全員が満足そうな顔をしていました。もちろん研修委員長も)

子ども達が楽器を持って演奏する機会が少ない分、保育者がいろんな楽器を使って、リズム遊びを保育の中に取り入れて、リズムを聞くと自然と体が動く子どもが増えてくれたらいいなあと思いました。

研修委員会 委員長 村穂 孝彦



【ふるさと民話部会】 ～ すくすくフェスタ ～

2年連続で「すくすくフェスタ in グラントワ」に参加させていただきました。当日は、人形劇・紙ひこうき飛ばし大会・手作リスイーツ小物販売などがある中に、民話部会の昔話読み語りも加わりました。日頃、昔話の大事さを確認し合っているものの、実際に多くの人たちの前で読み語りするのは難しく、貴重な機会に良い経験を積めました。人形劇のときには多くの親子が集まったのに対して昔話語りのときは少人数の聞き手でしたが、ていねいに継続していくことの大事さを部会員で話し合いました。2019年度の「すくすくフェスタ第4回」は8月4日(日曜)に開催されるということです。



民話部会長 山口 真

【子育て支援委員会、男性保育者部会】 ～ ポップコーンをつくろう ～

10月28日(日)万葉公園オートキャンプ場に於いて、親子ニコニコ交流日の交流事業として子育て支援委員会と男性保育者部会との共催で「ポップコーンをつくろう」交流会を開催しました。当日はお天気にも恵まれ、保護者34人、児童39人(21家庭)スタッフ19人、計90人の参加で賑やかに開催



することが出来ました。今回は飯ごうを使ってのポップコーン作りと焼きマッシュマロに挑戦しました。スタッフによりコンロの準備、火起こし等整ったところからのスタートとなります。日頃、仕事と育児の日々で屋外で火を使ってのアウトドア体験がしにくい状況で、こうやって子どもと気軽にできる体験活動がとても楽しかった。という声もありました。また子どもたちも火を使って簡単にできるポップコーンづくりを保護者さんと一緒に楽しんで体験できたようです。スタッフの先生方、また各園のご協力ありがとうございました。

男性保育者部会 須山 成顕

各委員会・部会の皆様に協力有難うございました。

編集後記

「平成」という元号を使うこともあと数か月となりました。各書類に新しい元号を入れる作業が始まりますね。今年4月より改定された保育所保育指針に従って、各園で専門性を活かした取り組みや環境を通して行う“教育・保育”を実践され忙しくされておられると思います。ある研修の中で「骨は折れても心の折れない子どもに育てよう」というフレーズがありました。皆さんも共感された事だと思います。これからの未来の子ども達の為に、みんなで一緒に手を取り合っていきましょう。今年も一年お疲れ様でした。

益田市保育研究会 情報発信委員会

委員長	松尾 伸	(高 津)	副委員長	本田 行信	(まるに)
委員	須山 信光	(わかくさ)	委員	藤井 初美	(神 田)
委員	菅 奈央子	(雪 舟)			

この機関紙に対するご意見・ご感想をお寄せ下さい。あて先はこちら↓まで
益田市保育研究会情報発信委員会：メールアドレス masuho@image.ocn.ne.jp
ホームページ： URL <http://masuho-k.jp/>

益田市保育研究会

tel:0856-23-3607

